《審査委員講評》

全体として

この度の「第１回サクセス保育・幼児教育研究懸賞論文」の募集は数多くの優れた論考の応募を得ており、保育実践研究の活性化に資するものです。応募者には若手の院生から中堅レベルの大学教員や実践現場の保育者、自治体職員までが揃っており、理論的に視野の幅を大きく広げ、また実践現場に明日からでも役立つ資料を提供してくれました。受賞に至らなかったものも含め、有意義な作品が多くあったことを書き添えます。

大滝　世津子　様
「保育者の社会的地位向上とわが国の発展との関係に関する一考察」

乳幼児期の重要性や質の高い保育が求められていることは承知のことである。しかしながら保育者の社会的地位はまだまだ低い。平成 27 年４月より「子ども・子育て支援新制度」が施行され、その中で保育者の処遇改善について国が対処すると明言したことは画期的なことであり、高く評価される。しかし限られた財源と時間の中で十分に行われるとは到底思えない。筆者は、保育者の社会的地位向上に向けて、①保育者の現状　②保育者の社会的地位の低さの根拠、③保育の専門性　等から詳細に提言し考察を行っている。育児と保育は異なること、また、保育者の社会的地位の低さ等は従前から言われていることではあるが、なかなか改善されない点である。今一度多方面から声を上げる必要性から評価する。

亀﨑　美沙子　様
「保育相談支援の困難性に関する要因の検討 –保育所保育士の感じる保護者とのかかわりの難しさを手がかりに–」

保育相談支援という重要性は理解されていても、その進め方についての検討が十分でないことについて、とりわけ相談の難しさに注目して分析した。特に、視野を広くして、保護者、子ども、保育士、保育システムの各々の難しさに関わる要因を整理している。そういった総合的で生態システム論的なアプローチは多くの示唆を与える有望な理論枠組みであり、子どもの利益のあり方の難しさを中心に種々の関係性がいわばジレンマとして働く点に見通しを立てている点で優れた考察である。

伊藤　理絵　様
「現代社会に生きる女性の多様な生き方を支える子育て支援に向けて」

日本人、特に女性の寿命が長くなったこと、また女性の社会進出が増加したこと、さらに核家族化などで女性の生き方は多様化し、それに伴って出産・育児等の深刻な問題をかかえる女性が増えてきた。

筆者は女性の多様な生き方を支える一助として子育て支援を取り上げ、女性の多様な生き方を支える子育て支援のためのネットワークのモデル図を提案している。この図から子育て支援には様々な分野からの専門性が必要であることは一目瞭然に見て取れる。子育て支援の今後の方向性として期待するものであり、一層の研鑽を望むものである。

松尾　剛行　様

「保育事故判例の教訓～10 年後の「安全・安心な保育」のために～」

保育において、安全で安心であることは言うまでもなく、基本的なことであるが、実際には様々な事故で分かるように、それを徹底させることは難しい。保育事故をなくすために、過去の保育事故の５６の判例を集め、その内容を分類・分析している。保育施設は、リスクの高低に応じて、現実的に可能なところで注意義務を尽くすべきだという考え方がそれらの判例を貫く基本的な考え方である。こういった法学的なアプローチにより、近年注目されている保育所等における事故の予防につながる貴重な提言である。